

平成28年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
(通級による指導担当教員等専門性充実事業)
成果報告書(概要版)

実施機関名 (横浜市教育委員会)

1. テーマ

情緒障害・LD・ADHD通級指導教室(通級による指導)におけるニーズの多様化等に対応した指導の充実のために、多角的な視点から現状の課題を明確化し、担当者の専門性向上を図る。

2. 問題意識・提案背景

横浜市では、通級による指導が必要な児童の増加とともに、障害状況やニーズも多様化し、従来から行ってきたソーシャルスキルトレーニングを中心としたグループ指導では対応が難しい児童も見られるようになってきている。そのため、通級による指導では、苦手な面の改善・克服とともに、一人ひとりのニーズに対応し、また、児童の得意なことを引き出し、才能を伸ばす指導・支援を行うための具体的な指導内容や方法について検討する必要があるが高まっている。

また、通級指導教室(通級による指導のこと)担当教員には、的確なアセスメントによりニーズを見極め、児童一人ひとりが能力を十分に発揮できるようにしていくための指導・支援を計画し実施する力が必要であるが、対象児童の急激な増加に伴い、担当教員の育成も急務であるが、その際に担当教員に必要な力をより具体的に示していくことが求められている。

3. 目的・目標

将来の自立と社会参加に向けて、発達障害のある児童が在籍校での適応を高め、能力を十分に発揮し、自己肯定感をもって主体的に学習に取り組めるようにすることを目的とし、拠点校において通級指導教室担当教員が専門家等からの指導・助言を受けながら、通級による指導の具体的なプログラムや効果的に支援するための工夫などを検討・実践する。その際に、現在の横浜市の通級指導教室の状況を踏まえ、

- (1) LD(学習障害)のある児童への指導
- (2) アセスメントに基づいた指導計画の作成及び指導
- (3) カウンセリングの視点を生かした指導
- (4) 児童の得意なことを引き出し才能を伸ばす指導
- (5) 担当教員向けの有効な研修の在り方

を中心として取り組んだ。

また、これらの検討・実践と通級指導専門性充実検討会議を通じ、情緒障害、LD・ADHD通級指導教室での指導・支援の在り方や担当教員に求められる専門性を整理・明確化し、専門性向上への手立てを検討していく。

4. 主な成果

- (1) 横浜市立小学校の通級による指導担当者に必要な専門性を、様々な視点から具体的な形で明確化することができた。また、明確化された専門性を充実させていくために、今後必要な取組についても、通級指導専門性充実検討会議を通して確認することができた。
- (2) 通級による指導においては新しい取組である「児童の得意なことを引き出し才能を伸ばす指導」を実施し、その必要性について通級指導専門性充実検討会議の中で共通理解することができた。

5. 通級による指導における専門性のポイント

- (1) アセスメントについて
診断や検査だけでなく、本人が困っているという視点が大切で、それを見取る力、包括的アセスメントができる力が必要である。また、アセスメントのために様々な連携を活用していける体制作りも必要となってくる。
- (2) LDのある児童への指導について
「読む」「書く」の前に、「聞く」「話す」で躓いている児童は多いため、まずは行動観察で見取り、そこから指導の必要性を絞っていくという考え方が必要である。
- (3) 通級による指導の計画と実施について
児童のニーズに応じて、適切に指導目標を設定し、指導体制や指導プログラムの設定を検討し、指導を組み立て、適切に児童、指導者ともに振り返りを元に指導目標や指導内容を見直していくことが必要である。
- (4) 児童の得意なことを引き出し才能を伸ばす指導について
通級による指導が必要な児童に対しては、自立活動の内容に沿って障害の克服・改善に向けての指導や支援が中心になるが、強みを生かす指導により才能を伸ばすという視点に切り替えていくことも必要である。

6. 拠点校における取組概要

(1) LD (学習障害) のある児童への指導
少ない指導回数の中で、検査結果や児童の様子からアセスメントし、具体的な指導プログラムを考え実行する際に、専門家からの的確な助言はとても有効であった。これまでLDの指導は個別に行った方がよいと考えていたが、ペア学習のほうが意欲や主体性が向上するなど、実践を通して体感することができた。
(2) アセスメントに基づいた指導計画の作成及び指導
通級による指導担当者間で、アセスメントの方法や生かし方、指導目標等の立案、具体的な指導内容や手立てを検討していくことで、児童の実態に合った柔軟な指導の流れや課題の設定の可能性を見出すことができた。個々の目標に応じた指導体制、課題設定に配慮した指導へ切り替えることで、より個に応じた指導を行うことができるようになった。
(3) カウンセリングの視点を生かした指導
個別の聞き取り場面や選択項目のある質問用紙の設定を通し、児童の思いや気持ちを引き出すこと、また、選択することを通し、改めて児童が自分の思いや気持ちを考えたり、自分の言動をふりかえったりするきっかけとした。児童の様子を丁寧に見取りながら、指導者間で瞬時に指導内容を変更したり、次の指導にかしたりしていける力が必要である。
(4) 児童の得意なことを引き出し才能を伸ばす指導
夏季休業中に拠点校で、サマースクールを開催した。普段は子供の自立を促す指導が主になるが、サマースクールでは高い目標に向けて支援をしていく。児童の興味関心が強い内容であれば、主体的に取り組んでいくことが可能だということが、今回の取組で見られた。

7. 今後の課題と対応

(1) 担当教員の専門性について
・自校でのOJTも含めた、担当者の育成、研修内容等の改善。 ・担当者の包括的アセスメントの力の育成。
(2) 通級による指導での指導体制について
・個別指導とグループ指導のバランスの取れた指導体制づくり。 ・柔軟な考え方や対応ができる担当者の育成。
(3) 通級による指導での指導内容について
・LD児のニーズに対応した指導内容の充実。 ・自己理解を促す指導や、強みを生かした指導によって自尊感情を高めていくこと。
(4) 保護者との連携について
・在籍校で十分な保護者支援ができるような特別支援教育コーディネーターの機能強化策。
(5) 在籍校との連携について
・在籍校支援を行いやすい通級による指導担当者の配置・指導体制の検討 ・在籍校で十分な保護者支援ができるような特別支援教育コーディネーターの機能強化策。

8. 拠点校について

拠点校名：左近山小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	121	4	121	4	100	3	102	3	94	3	107	3
特別支援学級	4		8		3		5		2		9	
通級による指導 (対象者数)	0		3		0		2		2		0	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	4	2	1	1	2	0	(派遣)	2	5	1

9. 問い合わせ先

組織名：横浜市教育委員会

- (1) 担当部署 指導部 特別支援教育課
- (2) 所在地 横浜市中区港町1-1
- (3) 電話番号 045-671-3951
- (4) FAX 番号 045-663-1831
- (5) メールアドレス ky-koko@city.yokohama.jp